科目ナンバリング	U-LAS01 10011 LJ38						
授業科目名<英訳>	現代文明Ⅰ Modern Civilization I			担当者所属職名・氏名	非常勤講師 黒宮　一太		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	歴史・文明(基礎)		使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・前期	曜時限	金3/金4	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

本講義では、われわれが生を営む「現代」という時代の意味を、今日の世界で関心を集める具体的論点に即して、歴史、思想的観点から論じていく。なかでも、西欧近代文明の形成とその今日的意味をどのように考えればよいのかということが中心的な論点となる。西欧近代文明を成り立たせている諸原理・諸価値にはどのようなものがあるか、それらに孕まれている問題とはいったい何であるかについて考え、西欧近代文明の現代における帰結を明らかにしていく。具体的には、「歴史の進歩」という西欧近代の中心的理念、近代主権国家の論理、「自由や民主主義の普遍化」という理念、グローバリズム、ニヒリズムなどに焦点をあてながら、現代文明の意味とその問題について考えていくことにする。

[到達目標]

1．西欧近代文明を成り立たせている諸原理・諸価値とはどのようなものであるかを理解する。
2．「現代」という時代の、また現代社会の重要な論点が何であるかを講義で解説した知識を用いて自ら見いだし、それについて考察することができる。

[授業計画と内容]

本講義では、以下の各論点につき１～３回の講義をおこなう予定である。ただし、ときどきの「状況」についての総合的な解釈を試みながら講義を展開していく予定であるため、また、受講者の関心や理解度も考慮しながら講義を進めていく予定であるため、各論点をとりあげる順序や回数は変更する場合もある（大きな変更がある場合には、最初の講義において説明する）。

1　「近代主義」の限界？：文明論的観点から日本および世界の「いま」を見る 【1回】
2　民主主義に信頼はおけるか？【2回】
3　近代主義が帰着した世界【2回】
4　グローバリズムを支えている歴史意識【1回】
5　「自由」の観念の大きな転換 【2回】
6　ニーチェが突きつけたニヒリズム【3回】
7　「アメリカ」という特異な文明について：その本質と終着点 【3回】

以上の計14回に加え、期末試験後にフィードバックを１回実施するため、授業回数は全15回となる。

[履修要件]

特になし

現代文明Ⅰ(2)へ続く↓↓↓

現代文明Ⅰ(2)

[成績評価の方法・観点]

学期末におこなう定期試験（80%）、および授業時間内に実施する小課題（小レポート、コメントシートなど、20%）により評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

とくに教科書は指定しないので、講義内で適宜紹介する文献を読んでみることをすすめる。

[その他（オフィスアワー等）]

受講するにあたって特別な予備知識は必要としないが、「現代」という時代・社会の総合的解釈に関心を寄せる人の履修が望ましい。

[主要授業科目（学部・学科名）]